

被災地カーシェアリング活動報告・パート2



平成 26 年 12 月 23 日
一般社団法人日本カーシェアリング協会
代表理事 吉澤武彦

1. はじめに

2011年10月に私どもの取り組みを「総合交通メールマガジン」にて紹介していただき、それから3年以上の月日を経て、再度オファーをいただきました。当時はと言いますと、やっとこさカーシェアリングの仕組みができて、手元にある5、6台の車を活用して本格的にスタートさせようといった段階でした。あれから3年。文化的な変化を石巻から生み出すことを目指しながら活動を続け、様々な方々の協力のもと、約65台の車を活用し、変化の兆しが遠くの方にちらっと見えてきたかな、といったところまでなんとか来れたように思います。しかし、やはりまだまだ発展途上の状態。今回も前回同様、私たちの3年間の旅路を、包み隠さず紹介いたしますので、何かの参考になれば嬉しく思います。

2. 「コミュニティ・カーシェアリング」の特徴と仕組み

震災後、約6万台の車が流された石巻では、圧倒的に車が足りない状況があり、私たちは全国から寄付いただいた車をグループ単位にどんどん貸していきました。私たちは利用者自身でルールを決めていただきながら、その場に合った形で使っていただきます。その自由さが功を奏し、送迎活動などに発展するケースも生まれました。私たちのカーシェアリングの特徴は、システムを中心に「人間関係」を据えていることであり、「コミュニティ・カーシェアリング」と呼ぶようにしています。



カーシェアリングを利用する仮設団地

基本的な仕組みは、以下の通りです。

1. 車を利用したい方々にグループを組んでいただき、協会名義の車を貸し出します。
2. 責任者を一人決めていただき、その方が協会の正会員になり、それ以外の利用者は

準会員として、正会員を中心にグループで車を管理いただきます。

3. メンバーの追加・退会は正会員に書類を提出することで行われます。
4. 車にかかる経費（燃料代・保険料・車検代・税金・修理代等）については利用者の方々にお支払いいただきます。（正会員に窓口になってお支払いいただきます）
5. 車に乗る際、運転日誌を記載いただき、いつ、誰が、どれくらいの時間と距離使ったか記録していただきます。
6. 車の活用方法、利用予約、経費のための積み立て等ルールは基本的に正会員を中心に利用者同士で自由にルールを作ってください、その地域に合った形（皆が納得いく形）で行っていただきます。
7. 車を返却する場合は、車検を半年以上残った状態で返却していただきます。
（次に車を使う人が使いやすくするために）

7以外は最初の型のままです。前回の寄稿に詳しく紹介しているので、より詳細を確認されたい方はバックナンバーをご参照ください。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/1109carshar.pdf>

3. カーシェアリング・コミュニティサポートセンター

上記のような型ができて、2011年10月から本格的に車を提供していったのですが、車が圧倒的に足りない状況でした。そんな中、ガリバーインターナショナル様から合計31台提供受け、活動に拍車がかかりました。



ガリバーインターナショナル様から車が届いた時の様子（2011年12月）

当時石巻市では、辺鄙な場所に建設された仮設住宅における交通弱者の移動の問題、自治会がなかなか生まれないというコミュニティ形成の問題を抱えていました。それらの問題に対して私たちの取り組みの必要性をご理解いただき、2012年2月石巻市は『カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンター』を設立し、その運営を私どもが委託を受けることになりました。私たちはいただいた委託料で、利用者の中から前向きな方を雇い入れ、センターの運営を行いました。



カーシェアリング・コミュニティセンター前（仮設大瓜団地の集会所）にてスタッフ

センターでは新しくカーシェアリングの利用を希望される方々への説明や登録などの導入サポート、既に実施している方々へのフォロー、行政・起業・教育機関等との連携調整等行っています。



毎月利用者を訪問し、利用状況などを確認し、必要に応じてフォローを行っています。

4. 住民同士の送迎活動

先に少し触れましたが、私たちの車を活用した送迎活動が現在 6 か所の仮設住宅で行われています。カーシェアリングを行っている団地の 1 名か 2 名程の有志住民ボランティアの方が、車を運転できない高齢の方などの送迎などを行っています。ドライバーは日中比較的時間を作れる 60 代の比較的若い年金生活者や主婦の方が中心で、多い場所で 30~40 人程の送迎を行っている所もあります。

この住民同士の送迎活動には、単に移動だけでなく、高齢の方が近所に住むドライバーと車の中等で様々な会話を行うことで、情報交換や関係を育むことができ、自然と地域内での見守り体制が生まれることや、送迎ドライバーにとっても、やりがいやライフワークに繋がり、お互いの生活の質が高まっている様子を現場で垣間みしています。この住民同士の送迎活動はこれから本格的に訪れる高齢化社会になくってはならない存在になると実感しております。

ただ、この取り組みの最大の課題はドライバーの確保です。ドライバーが安心して、そして何らかのお礼を受け取れるような社会環境を作れるかどうか、それがこの大切な小さな取り組みを維持・発展させるうえで重要なことだと感じています。私たちもそういう環境づくりにできる事を現場の中で行っていきたいと思っております。



送迎の様子。

5. 車を活用した様々な社会貢献

たくさん車を扱いながら活動を行っている現場で様々な相談を受けました。資金集めに苦労している支援団体、車がなくて就職活動ができない方、起業や事業再建で節約したい事業者等、あまり枠にとらわれず、地域への貢献につながると判断すればどんどん車を貸し出すようにしていきました。車を一定期間貸し出すだけで、個人や事業に動きが生まれ活性化する車の可能性を現場でいろいろと垣間みました。



お弁当事業者の宅配事業をサポートするための車の貸出を行った様子

その延長線上で、私たちは2013年12月にレンタカーの事業免許を取得しました。私たちがカーシェアリング用に貸し出した車の中で役割を終えて返却される車もあります。そうした車の車検期間が短い場合、次にその車を活用することが難しく、車検を通す経費を捻出できずに車を手放すことがありました。私たちはそんな車検期間が短い車をレンタカー登録し、有料で貸し出し、車の維持費に充てる取り組みを始めました。

また、私たちは、普通に有料で貸し出すのではなく、地域に貢献できるような車の貸し方を事業として行いたいと考え、まずは、被災地への関心が薄くなっている状況に対し、震災直後に支援活動で石巻を訪れてくださった多くの方々に再び訪問していただくことを目的とした、石巻の支援活動に関わった方は半額のレンタカーを始めました。

このレンタカー事業を生活支援や起業支援等の地域貢献のための車の貸出し事業に発展させていくために、現在少しずつ体制を整えながら進めております。



レンタカー貸し出しの様子

6. 電気自動車で広がる可能性

2012年10月、仮設住宅で電気自動車（EV）の試乗会を利用者同士の交流イベントの一環として行いました。その時、イベントが結構盛り上がり、利用者の方が「復興住宅に移ったら、電気自動車でカーシェアリングできたらいいな」と夢を語るように話をされていました。その声を三菱自動車工業(株)様に伝えたところ、2013年8月、電気自動車 i-MiEV を6台、無償貸与いただけることになり、仮設住宅でEVを充電できる設備を設置し、仮設自治会が運営するEVカーシェアリングが始まりました。



三菱自動車工業(株)から電気自動車を無償貸与いただいた時の様子（2013年8月）

被災地でEVを活用する意味は、何といたっても車が電源になるということです。石巻

をはじめとする被災地の人々は、電気がない辛い生活を数か月過ごされています。こういう電源になる車が側にあるだけでも安心感が生まれます。この車の給電機能を活用して、運動会の本部テントの電源に使ったり、旅行先でお湯を沸かすのに使ったり、更に防災訓練で電気を取り出す練習をしたりしました。



防災訓練で EV から取り出した電気で沸かしたコーヒーをふるまっている様子。

7. 復興公営住宅で行うエコ・EVカーシェアリング事業

以上のような電気自動車の活用を三菱自動車工業(株)様が見守ってくださり、2014年5月、お借りしていた電気自動車6台を給電装置 MiEV power BOX 付きで寄贈いただきました。その寄贈式の際、石巻市長が参加してくださったのですが、式の始まる前に立ち話で「復興公営住宅で自然エネルギーを使った EV カーシェアリングを実施したいので、協力してほしい」という話をさせていただき、「もちろん！」と快諾してくださったのです。

立ち話を公式なものにするために、2014年9月、市長に協力を要請する要望書を提出し、11月に協力を約束する公式な回答をいただきました。



仮設住宅自治連合推進会と連名で市長あてに要望書を提出した時の様子

これを受けて 11 月 24 日に石巻市の 5 つの課の課長、石巻専修大学、東北大学といった地元の大学の先生、技術コンサルタント、メーカー等がメンバーとなり「検討委員会」が設立されました。三菱商事復興支援財団の助成が決定し、2015 年春に入居予定の復興公営住宅 1 箇所太陽光エネルギーで充電する EV カーシェアリングの社会実験が行われることになりました。



第 1 回検討委員会の様子

この社会実験で設置されるシステムは、住民の移動手段やコミュニティ形成といった従来の私たちの取り組みで得られる効果だけでなく、自立的に発電することができるため、停電時に近隣住民に電気を供給するだけでなく、EV に電気を蓄えて必要などころへ運び、給電することができる防災機能を有するシステムです。この社会実験を通して、検討委員会メンバーと共に本格的なモデル作りを行い、社会的な効果や影響力を

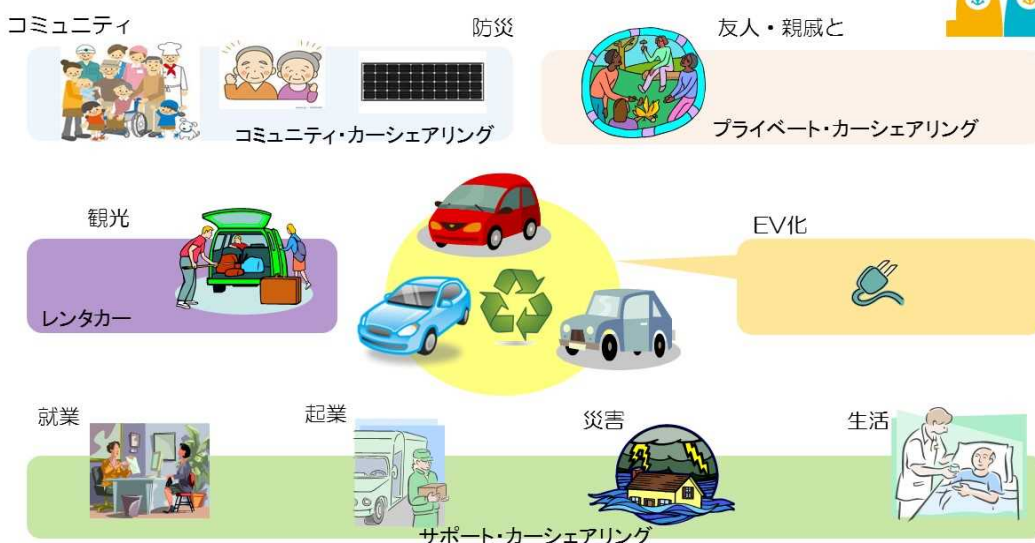
検証し、有効性が確認された暁には、石巻市内の他の地区での展開を行い、地域モデル構築を目指します。

8. これからの事

今まで全国から寄付いただいた車を集め、この石巻に必要な車の活用を被災地支援として取り組んでまいりました。これからは、地元で車を集め、地域で困っていらっしゃる方のサポートや地域課題を解決するために活用していく平時の取り組みを今まで以上に意識して進めてまいります。

先日、地元の工藤電機(株)主催でガソリン車をEVに改造するコンバージョンセミナーが石巻専修大学で行われ、地元の整備工場の方々に交じって参加しました。地元でこうした動きに参画し、古い車を少しずつコンバートしていきながら、人と地球に優しい、持続可能な地域づくりに寄与することを目指して取り組みを進めていきたいと思えます。

地域の車を地域のために活用する雛形を作る！



9. 最後に

私たちの目的は「石巻に雛形を作る」ということです。石巻でできたモデルをできるだけ他の地域で展開しやすい形にまで作りこむことが私たちの役割だと思っています。そして、そこでできた雛形を基に、他の地域にノウハウを伝え、貢献することこそが、今まで様々な支援をいただいていた私達が行うべきご恩返しであり、目指す復興の形

であると考えております。まだまだ発展途上ではありますが、何かみなさまの地域の政策にお役に立てることがございましたら、お声掛け掛けいただければと思います。

10. ご案内

＜軽自動車・軽トラック募集＞

地元での車を供給する仕組みを作るにはまだ少し時間が必要です。今の石巻での活動をより活発に行うために車を集めております。活用していない車をお持ちの方で、もし私どもの取り組みに賛同しご提供いただける方がいらっしゃったらご一報ください。

＜日本カーシェアリング協会のレンタカー＞

被災地を巡る際は、ぜひ私どものレンタカーをご利用いただければと思います。

詳しくは下記 URL からパンフレットをご参照ください。

<http://japan-csa.up.seesaa.net/image/rental-car-pamphlet.pdf>

11. 連絡先

一般社団法人日本カーシェアリング協会

代表理事 吉澤武彦

住所：〒986-0005 宮城県石巻市大瓜字鷺巣 45-1 仮設大瓜団地集会所内

E-mail : info@japan-csa.org

TEL / FAX : 0225-22-1453

ホームページ : <http://japan-csa.org/>

Blog : <http://japan-csa.seesaa.net/>

Twitter : <http://twitter.com/#!/JapanCarSharing>

Facebook : <https://www.facebook.com/japan-csa>